



校報

水糸者

No. 1297

元年度・第156号

心を1つにして跳び続けた種小っ子

「ONE・TEAM」となって挑んだ、感動のなわ跳びグランプリ

7日(金)に『学級対抗なわとびグランプリ』が行われ、今まで練習してきた成果を全て発揮し、多くの保護者の皆さんも応援に駆け付けた体育館は笑顔と声援、歓声、拍手そして涙、感動に包まれました。 **〔学級対抗なわとびグランプリ・ドキュメント〕**



出番を終えたら、今度は必死の形相で応援をする種小っ子



どのチームも、友と先生と心を1つにして元気よく跳び続け、回し続けました。



競技終了の瞬間、喜びを爆発させる子どもの姿、力を出し切り倒れ込む姿…。今まで一緒に、一生懸命に頑張ってきた子にしかできない、種小っ子の誇れる姿です。



大会に向けて練習も頑張っていた種小っ子



大会で力を発揮するには、大会に向けての動機付けとそれに基づいた、普段の練習が大事になります。跳び終わった後には「ふり返り」をしっかりと行い、更に意欲を高めながら、校庭や体育館で連日練習に励む子どもの姿がたくさんありました。心が1つになるにつれ、どのチームも上達していきました。



競技結果

- ・優勝…5年1組（獲得点 605点）
- ・第2位…6年1組（獲得点 560点）
- ・第3位…2年1組（獲得点 539点）
- ・校長賞…3位までの入賞学級以外の全学級



〈今年度のルール〉

- ・3分間×2で跳んだ回数を競います。
- ・低学年は跳んだ数に150回を加えた数となります。
- ・中学年は跳んだ数に100回を加えた数となります。



昨年度の大会に続いての優勝は5年生でした。
二連覇に喜びが爆発する5年生。おめでとう！



【校長賞の理由】

どのチームも、今日の本番の姿も練習の時の姿もすばらしかったので、入賞を逃したチーム全てに授与しました。

苦手な子の肩に優しく手を添え、「何やっている！」、「下手！」などの悪い言葉、嫌な言葉を全然使わずに、今日までやり遂げた姿がとてもうれしかったからです。

「わからんときは おしえっこ、うれしいときははしゃぎっこ、こまったときはたすけっこ」の姿がたくさんあり、それは種小っ子の手本とする姿でした。

冬場の体力向上と、進学・進級を控えたこの時期に学級の絆を深めることをねらいとして、12月に実施した「縦割り班対抗」ではなく「学級対抗」とした今回の縄跳びグランプリも大きな感動と成果を残し、幕を閉じました。



閉会式直後のまだ余韻と興奮が冷めやらない体育館の片隅で、6年生と担任が反省会をしていました。6年生にしてみれば、卒業前に有終の美を飾りたかった事でしょうが、5年生に2連覇された悔し涙の大会となりました。

しかし、今回の成功の源は、6年生の普段の生活態度にあります。全ての学校生活において6年生の、わかるまで、できるようになるまで丁寧に親切にやさしく下級生に教える姿は、誰とでも協力して心を1つにして取り組むことの大切さや必要性などを、下級生に教えていたのです。6年生の普段の姿を手本に、心を1つにして練習や競技を頑張る大切さに下級生も気づき、全員が最後まで頑張れたから、今年度の大会も大きな感動となったのでしょう。

どのチームも大声を出し合い、必死に跳び続ける「ONE・TEAM」となった姿から、4月から今日までの学校生活をごまかさないうで、しっかりと送って来た事が伝わってきました。6年生が背中を示してきた「種市小学校の最上級生の姿」が全校に確実に伝わっている、広まっていることも感じられたうれしい時間ともなりました。

1学期に「耕し」、2学期に「根っこと幹」を育てて来た種小っ子の心に、世界に1つしかない『花』がいよいよ咲き始める事が実感できた時間となりました。

「協力」の本当の意味を知り、「絆」と「友情」が深まった事と高まっていくチームの法則をつかんだ事も含め、実に実りの多い大会となりました。

